

令和元年度第2回亀山市環境審議会 議事録

日 時：令和2年1月20日（月）午前10時～午前11時30分

場 所：亀山市総合環境センター 4階 研修室

出席委員：朴 恵淑 宮岡 邦任 松村 直人

山村 直紀 平山 大輔 坂森 正博

坂下 輝之 増村 尚達 中村 愛

北倉 千秋 （12人中10人出席）

傍聴人：1人

司会

それでは、定刻となりましたので、令和元年度第2回亀山市環境審議会及び亀山市廃棄物減量等推進審議会を開催させていただきます。

なお、本日の会議は、現在策定中の亀山市環境基本計画の中間案に関する議事が2つの審議会でも共通するため、環境基本計画に関する議事については、両審議会を併せて開催させていただきます。

申し遅れましたが、私、本日の進行を担当させていただきます亀山市生活文化部 環境課の谷口と申します。本日はよろしくお願いいたします。

さて、本日の委員の出席状況でございますが、環境審議会につきましては、6番 豊田康子委員、11番 豊田和人委員から欠席の連絡をいただいております。委員12人中10人の皆様にご出席いただいております。委員の過半数の出席がございますので、亀山市環境基本条例第25条第2項の規定に基づき、環境審議会が成立していることを報告させていただきます。

また、亀山市廃棄物減量等推進審議会につきましては、8番 折戸委員、9番 櫻井委員、10番 伊藤委員、11番 野村委員、14番 田中委員から欠席の連絡をいただいております。委員16人中11人の皆様にご出席いただいておりますので、報告させていただきます。

それでは、両審議会の開催に当たり、朴会長からご挨拶をお願いいたします。

(会長挨拶)

司会

それでは、亀山市環境基本条例第25条第1項及び亀山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例施行規則第8条の規定に基づき、以降の進行は両審議会において会長にご就任いただいております朴会長をお願いいたします。

朴会長

それでは、会議の進行をさせていただきます。皆様のご協力により進めてまいりたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

では、事項書に沿って進めさせていただきます。

まずは、両審議会共通の議事である事項書2、議事の(1)「亀山市環境基本計画の中間案について」事務局から説明願います。

(資料1から資料5及び参考資料1に基づき事務局から説明)

朴会長

ありがとうございました。かなり多岐に渡ったボリュームの多い資料であったが、要領よく説明していただき、ありがとうございました。

早速どの分野でも構いませんので、委員の皆様からの質問、意見賜りますが、委員の皆様よろしく願います。

朴会長

日程的なことの確認と、位置づけについて、よろしく願います。

つまり、今日は中間案という感じでまだ全部詰まっていはいないのですが、基本的な考え方や柱は如何かということ、実際に7月、来年度に素案が出て、3か月後に策定、パブコメも含めて3月には策定、令和3年度からスタートという理解

でよろしいでしょうか。

事務局

はい。令和2年度において最終とりまとめを行い、令和3年度からのスタートと考えております。

朴会長

もう1点であります。環境基本計画、2030年をめどにした世の中変わる中での10年間、もちろん見直しも途中で必要だと思いが、大事なのは、4つの部分を一気に基本計画の中に盛り込んでやっていくということなんですよ。

その4つの部分、概要版を見てみると、生物多様性に関わるもの、温暖化に関わるもの、廃棄物に関わるもの、そういったような部分を一つにまとめてやっていくということ、市町の中で亀山の非常に戦略的な大変な試みだと思うので、皆様々な分野での専門家ですので、是非ともご意見をいただきたいと思うがいかがでしょうか。

宮岡委員

SDGsは2月に環境方針が出されて、県も言っていて、亀山もやっていると、県の方針にのっとってやっていると思うが、SDGs＝環境ではない、いろいろな目標があるのですが、去年の4月アンケートSDGsに関する認知調査はしたのでしょうか。

というのは、SDGsはハードルが市民には高く、素晴らしい環境基本計画だけれども、結局一つ一つはわかっていてそれをやるのが私たちに跳ね返ってくるのですが、SDGsに絡めていく必要があるのか。今一つ認知されないのではないのか。なくてもよいのではないのと思ったらおしまいなんじゃないのと。

資料1の右側の最初のSDGsの説明の部分、政府の文章だと思うのですが、この説明だと亀山市の市民が日ごろの生活を送りながら、こういうことをやっていくという意味合いになかなか結びついてこないのではないかと。

大学もSDGsやっていますが、教授会で話しても学部の教員はほとんど無関心なんですね。大学でもその状態であってそれを市民レベルでみると多分同じなんじゃないかと。

そうすると、概要の1頁の説明の中で私たちの生活にSDGsを絡めたときに、こういうことでこれが必要だからSDGsに乗っかって環境を考えていけないといけないという、もう少し1行、2行そうした説明が合ったほうが良いのではないかと思う。そういうものを、言い回し、県でもあまり見たことないし、ほかの市町でもあまり見たことがないが、それをはっきり位置付けることによってSDGsやるのが大切だという位置づけが出てくるのではないか。

多分総合的な部分になってくると思うのですが、そこが固まらなないと、せっかくいいものを作っても、SDGsいらなよねとなったらもったいないと思うので。

どうでしょう。いい名文が浮かぶのかなと。こんなことを言っておきながら、こんな文章どうでしょうというのはノーアイデアでそこまでの発言ができないのですが。

事務局

市民生活との関係を書き込むことによってもう少し実感を伴って入ってくるんじゃないか、SDGsという言葉が、ということだと思うのですが、難しいですね。ちょっと検討させていただきます。

朴会長

委員の一人として、入れるべきです。ただ、宮岡委員のおっしゃるのは、亀山版、環境でSDGsをやっていく意義はどうなのかを子どもでも分かるような形で説明や意義を書いたうえで、だからこうだというのを書いたほうが良いということだと思います。

SDGs政府自身もあまりわかっていない。ただ単に、流行のようにやっていくことになるのですが、そのうち見えてくると思う。

逆に言えば、市民がわかるような、パートナーシップでやっていく、SDGsは亀山に学ぶというようなことをやっていけると思う。AKPも同じようなことであった。

SDGsも何気なくやっていったものが、「これだった。」ということで、目から鱗のようなことが大事だと思う。

亀山市の強み・弱みを行政から提示し、みんなでやっていくために根気よくコミュニケーションを図り、その中で亀山環境版SDGsがこういうものだということが見えてくると思う。今行政として今、宮岡先生の質問に答えるのは難しいと思うので、これから一緒にやっていきたいと思う。

SDGsは外せない。全世界のすべての関係者がやらなければならないものを、グローバルでやっていく亀山を作るのがみんなの知恵だと思う。

この場でこれだということではなく、コミュニケーションのあり方、それから庁内の取り組み方、誰かがリーダーシップをとらなければならない。そういうような時期に来ている。

松村委員

宮岡先生のご指摘はもっともだと思う。確かに、難しいところはあるが、市民感覚に訴えるためには、なぜSDGsがでてきたのか、例えば熱帯林が減少してとか、あるいは先進国と途上国との問題があってというような関係に少し触れたらよいのではないかと思います。

また、今までの歴史があって今の亀山の状況があるので、少し歴史なり、自治会なんかの意見ももらって、市民感覚、皆さんの常識に訴えるようなことがあってもよいのではないかと思います。

例えば、森林についても、今の森林が突然出てきたのではなく、亀山市で長い歴史があって、林業が栄えて自然林、人工林がこうなっている、ということがあっての今の状態だと思いますので、なぜ今森林の価値が高まっているのかということを訴える方向で考えてもらってもよいのかなと思いました。

山村委員

A K Pは2回目ですね、やってもらっていて、実際アンケートとかみると、やっている人はすごく積極的であるのはよくわかる。あとデータとしてはA K Pという言葉聞いたことのある人も環境に取り組んでいる人が多い。

A K P、やっている人はもちろん、知っているだけでも環境に対して関心を持って行動してくれている。

A K Pを、人数的には世帯数で見ると多い率ではないが、A K Pをやっていることは全体としては小さかったのですが、その効果としては普及はある程度はできたのかなと思っています。

資料、再生可能エネルギーの活用92頁、資料2、今まではF i t制度があって、再生可能エネルギー主に太陽光が多いと思うが、太陽光の導入を図るという動機になっていたが、F i t制度はここ数年でなくなると思う。

今でも、当初の、F i t制度買取金額も半分以下に落ちている中で、これからは作るだけではなく「貯める」をセットにして考えていかないといけない。

作るだけでは導入は今後どんどん減っていきだろと思う。家庭は昼間より夜の方が電気の消費量が多いので、昼間発電して夜使うとなって夜買うべき電力の分だけ貯めて使ったほうが、売るよりもはるかに節約になる。

これから再生可能エネルギー、進行管理表なんかを見ても、再生可能エネルギーの導入にポイントを絞っているようであるが「貯める」も考慮に入れてはどうか。

推進ですね、ただ発電するだけ進めても導入されにくいので、セットにして、夜使う電力を「貯める」ことをアピールして導入を進めていくとよりよいのかなと思います。

平山委員

亀山市の生物多様性地域戦略のたたき台を作るところに関与していた。今回、環境基本計画の大きな柱として位置づけていただいていたよかったですと思っている。

S D G sの話もあったが、生物多様性という言葉も認知度が低く、何が大事で

何をやっていけばよいのかについても、全国のアンケートでも逆にだんだん認知度が下がってきている現状もあって、難しいところだと思っている。

今回、生物多様性の学び等を柱にして計画を作っているのはすごくよいと思っているが、若干気になっているところは、本冊の例えば49頁、51頁に入ってくるところで、施策の内容、自然度の高い森への誘導が入っており、全体の目標として市域のみどり率が1つ上がっているだけである。次の54頁の受け取るの目標は、イベント等に参加した人数が上がっているが、ここでやるべきことは、地産地消の促進や地域の自然資源の活用になってくる。

もう少しそういった具体的なことを目標に掲げた方が良いのではないか。みどり率だけでは、施策内容が反映されないのではないか。

今後、目標はこれでよいのかについて検討いただけたらと思う。

間伐の面積、県産材をうまく使って何かそれを利用していくということを目標に掲げ、そこでも何か積極的な利用が図られるようにすると間伐面積も上がってくると思う。

具体的に現状を改善するためにふさわしい目標を書いてもらったらよいと思う。

事務局

目標は事務局も悩んでおり、施策内容全体をカバーするのに近づきたいという思い、個別に設定しすぎると数字だけを追うもの、把握できないものもあるという中で、取り組み方針に対してできるだけカバー率の高そうなものを一つというイメージで作っています。

項目も中の会議とかでもいろいろ意見をいただいております、どうやって施策内容を反映した目標にするかについて、考えたいし、ご意見アドバイス等お願いできればとも思う。

平山委員

確かに一つに絞るのは難しいし、全体をカバーするのも難しい。個別に挙げて

引っ張られるのもわかるが、一つだけだとこれを達成していたら良いということでこれに引っ張られることもあると思うので検討して決めてほしい。

事務局

適宜内容を見直し、とれる数字等も確認しながら検討していきたい。

朴会長

平山委員の指摘は大事なことである。戦略的な指標を立てないといけないので、検討してほしいと思います。

また、適当な、あまり野心的な指標を立てると首を絞めるようだから当たり障りのない目標を立てるのはだめだし、野心的すぎても全く達成できなかったでも評価の部分で困る。

ここの設定が大切であり、新しいものを作っていくのが大切であると思う。

増村副会長

素晴らしい資料であるが、しかしながらすご過ぎて手に負えないという感じもしている。

私は、企業の企画で海外戦略とか、P D C Aを回していた。

素晴らしいP、プランニングはできていると思うが、実効性ということで落とし込みがしっかりしていないから課題もあまり見えていない。

どのように進めていくか、市ではいろいろな項目に対して、職制で割り付けはされている。

これはいいと思うのですが、この後、企業ではセクションに投げるだけでは全然進まない。ブレークダウンが必要である。

項目をブレークダウンしてそれぞれを担当に割り付ける。担当はその年度の自分の活動目標、上司は管理項目にする、そんな感じでみんな頑張る、成果が出る。

Dを職制に展開するのと、実はそれでは足りないということで亀山市は自治

会でグループ化されている。一番大きいのは22のまちづくり協議会。

もう一つはそれぞれの自治会を地区でくくった支部で20ある。自治会連合会が仕切っている。実際、住民、市民というのは関心が薄い。こんなことしたくないのがほとんど。やりたくないのが大概の人で不幸にして自治会長になった人は1年で勘弁してくれというような組織を動かさないといけない。

まちづくり協議会は、市の指定管理をやっていて300万円くらいの年の予算を持っている。私たちのまちをいいまちにしようという計画が入っている。

野登や川崎や野村とか、かなり具体的に活動している地区もあり効果を出している。Dを職員にブレイクダウンするのと、まちづくり協議会、自治会連合会に話しかけて、拍車をかけて活動していく必要がある。

アクションでそれを全体に広げてそれを評価し、ランクを上げていく。くるくる動かしていくとよいなというのと、住民一人一人はやる気がない。自治会1つ1つ、個人はやる気がない。

ところが、まちづくり協議会の委員や役員はがんばっている。これは素晴らしい組織である。そういった組織を使ってPDCAを回していく。

加えて、計画がゆっくり過ぎる。気温も上がる。急に雨が多くなった、暖冬で大変だとか、スーパー台風もやってきそうで、大変な変化を感じているが、もう少しスピードアップして効率的にやっていけないか。

朴会長

とても大事な話で、ワークショップを2回やったということですが、参加者の属性ですが、まちづくり協議会や自治会はどれくらい入っていましたか。

ワークショップをやりました、アリの的なことはやってほしくない。地域で頑張っている人に声をかけてその方々が地域の課題や成果を持ってきたワークショップなのか。

事務局

資料4、資料編の20頁の下段、今後の予定のうえに、協力団体が入っており、

森林の関係、みちくさの協議会、各環境関連団体、商工会議所、温暖化の推進員、ダイエツトサポーターさんにも参加していただいている。

朴会長

いろいろな方々が参加したということであるが、得られたものはある意味で当たり前のものである。

今市が考えているものはどういうもので、それに市民の力をどういうように繁栄していくのか。より進んだ形での。

亀山が全く分からない人を抽出するのではなく、じゃあ実際にどうするのかということに切り替えるのも1つの手かなと思っています。

22のまちづくり協議会のヒアリング、自治会連合会のヒアリングも必要ではないか。いろいろな地域の持っているものが見えるのではないかと考えております。やり方を2通り、リーダーに対する部分とわからないという人へのコミュニケーションをどう図るかを戦略的に考えてほしい。

委員の皆様にもお力をお借りして変わったかたちでのワークショップ開催しませんか。

坂森委員

農家の現場から一言申し上げたいが、今回の資料には感心しました。これだけ立派な資料を作られて、ストーリーもわかってきた。

現場からの意見としては、再生可能エネルギーという観点から、亀山市は全国から2年遅れて8年経過した。太陽光発電の設置が298か所、面積にして25町歩ほど農地を利用されている。この中で、これから先どうなるのか心配苦慮している。当初はKWあたり34円、去年は14円、今年からは7円か9円になる見込みだということも報告されており、この先大変難しいと感じている。

今までの、太陽光発電施設の総発電量は8000万KW、原子力88基に相当すると。

最近の自由民主党、与党の話を聞いていると、再生可能エネルギーを現在1

6%まで持ってきた。2030年には22から24%を目標に政府は考えている。関心を持ったのは、政府与党による再生可能エネルギーと蓄電池と組み合わせた地産地消のエネルギーシステムを目指していると、蓄電池によって地域の活性化も言われている。

太陽光発電の一番困っていること、1つは農地をどうしていくのか。

あるいは20年もつのか、見通しはどうか、業者が放棄したらどうなるのか。文化日本は崩れていくのではないか。ましてや事業は止められない。

亀山市にも多くの業者が入ってきている。こういったことを苦慮しておりますので、よき亀山の農業を前向きに進めていただきたい。

山村委員

廃棄物の問題、太陽電池20年は持つということなんですが、問題はその後ですね。もともとは農地なので、農地から太陽電池をちゃんと引き払ってくれる業者はよいが、そのまま放置して逃げる可能性が考えられる。

それに対しては行政も何かしら対策を想定されておいた方がよいと思います。太陽電池の業者は大手がやっているところは、まだ多少ちゃんと管理してくれると思うが、どこがやっているのかよくわからない業者や、そのためだけに作られた業者が多いと聞いている。

また、国内だけではなく外国からも多くの業者が入ってきているので、今後、今年で初年度のFitが終わるので、来年以降次々とFitの期限を切れるものが出てくると思います。

既存施設が十分発電できるのであれば、7円9円でも施設整備の分だけまかなえればまだ続けていくところもあると思いますが、最近の自然災害も多いということで、台風などで太陽電池が壊れたりも十分考えられると思う。

その時に修理までして事業を続けるかというほとんどの業者はやらないという選択をとる。その際ちゃんと片付けるかを監視して守って、また農地として復活させるのか、あるいはほかの何かに利用するのかを考えていっていただければと思う。

中村委員

朴先生のお話をたびたび伺っている市民の一人で、主婦感覚で感じていることを申し上げたい。

市の環境の職員の方々のお陰でこの部屋は大変あったかいと思います。思考力を衰えさせるほどの暖かさです。

立派な資料に圧倒されて目を通したがなかなかついていけない部分もあります。だけど、今質問や意見を聞いて、過去にも環境は出前講座とか努力しておられると思いますが、その時に参加者が少ない。環境の話だと。出前講座をしましょうかといっていたいて受けても参加者が少ない。自治会もしかりだと思います。

そういうときの人を呼び出せる方法、参加者を増やす方法などアドバイスいただければと思います。

朴会長

ちょっと温度を下げる方法、ストーブは切りましょうか。

人をどうやって呼ぶのか、というのはいろいろ方法はあるかと思うのですが、人は面白そう、役に立つかも、友達に誘われていろいろな理由で集まる。

亀山市民の環境意識の高さと、公共交通が不便な中、いつも来ていただく、多いか少ないかはいろいろあると思うが、亀山市民の普段の意識は高いと思っている。そこにどういうように火をつけるのか。

役に立った、すぐできそうという部分があると、口コミとか何かで役に立つということでやっていく部分が1つある。やってほしくないが、有名人をよんだから人が来るかというところでもありません。成熟度がどれくらいあるのか。客寄せパンダのようにお願いするのも1つの手かなと思うんですが、それなりの方ができる人はいます。お金があまりかからなくても、知っているのも、また話をさせていたどうかと思っています。

言いたいのは、5万人のまちでこれだけいろいろなイベント、学びの場がある

というのは上の部分に来ていると思うので、成果をどう出すかを考える必要があると思っています。

他にありますか。よろしいでしょうか。

朴会長

次にお目にかかれるのは7月頃になると思いますが、長いので、さらに頑張るといことになっていきますので、ご意見など、事務局に発信をしていただいで、これは委員の共有が必要ということがあれば、いろいろな媒体で共有できるようにしていただければと思っています。

今日の共通した認識としては、この基本構想には、大きな問題はない。この基本構想でいく。ただ、細かいところにおいて考えなければならないことがあるといことので、中間案の柱としては認められたといように認識してここで了承として図りたいと思いますがよろしいでしょうか。

(委員賛成)

朴会長

事務局からこれからの進行について案内をお願いします。

(環境審議会の議事の終了・廃棄物減量等推進審議会の継続について案内)

朴会長

ありがとうございました。